

宮城県感染症発生動向調査情報(第10週)

宮城県【平成27年03月12日】発行
宮城県保健環境センター
TEL (02)257-7228

ー 2015.3.2 ～ 3.8 ・ 第10週 ー

上段は患者発生数、下段は定点当たり

疾 病	保 健 所								患者数	累計	宮 城 県 (含む仙台市)			
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼	仙台市			第7週	第8週	第9週	第10週
水痘	2 0.40	2 0.20	1 0.20	1 0.50	1 0.33	1 0.20	1 0.50	1 0.17	26 0.45	432	○→	○→	○→	レ
流行性耳下腺炎		1 0.10			1 0.33			11 0.42	13 0.22	71	→	→	→	
百日咳											→	→	→	
感染性胃腸炎	41 8.20	59 5.90	62 12.40	33 16.50	27 9.00	76 15.20	13 6.50	319 12.27	630 10.86	6,329	◎→	◎→	◎→	◎
手足口病								6 0.23	8 0.10	80	→	→	→	
伝染性紅斑	6 1.20	1 0.10	8 1.60		2 0.67	2 0.40	1 0.50	20 0.77	40 0.69	554	レ→	○→	○→	○
突発性発しん		5 0.50	5 1.00	1 0.50	1 0.67	2 0.20	1 1.00	2 0.38	10 0.45	252	○→	○→	レ→	○
ヘルパンギーナ			2 0.40					2 0.03	9	9	→	→	→	
インフルエンザ	47 5.88	85 5.67	55 6.88	2 0.67	4 0.80	48 6.00	28 7.00	191 4.55	460 4.95	17,531	◎→	◎→	◎→	◎
咽頭結膜熱	1 0.20	3 0.30		3 1.50	1 0.33			9 0.35	17 0.29	123	→	→	→	
流行性角結膜炎		1 0.33						1 0.08	22	22	→	→	→	
急性出血性結膜炎											→	→	→	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	18 3.60	27 2.70	17 3.40	4 2.00	1 0.33	27 5.40		83 3.19	177 3.05	1,475	◎→	◎→	◎→	◎
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)											→	→	→	
無菌性髄膜炎											→	→	→	
マイコプラズマ肺炎				2 2.00				5 5.00	2 0.40	9 0.75	74	→	→	→
クラミア肺炎(オウム病は除く)											→	→	→	
RSウイルス感染症		1 0.10		4 2.00	2 0.67			2 0.08	9 0.16	286	→	→	→	
拡張 疾病	マイコプラズマ肺炎(小児科) 川崎病 不明発疹症	1 	2 							1 1 1	◎ ○ レ	①：流行の変化について、今後の情報に十分注意 ②：発生または流行について、今後の情報に留意 レ：発生がなくなっている傾向		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)※			3						4	78				

※ 法改正により、平成25年10月14日より、ロタウイルスが原因の感染性胃腸炎について、基幹定点より報告を求められることになりました。

インフルエンザ関連情報 (患者報告年齢別割合)

報告週	年齢群	0～4歳 (%)	5～9歳 (%)	10～14歳 (%)	15～19歳 (%)	20～29歳 (%)	30～39歳 (%)	40～49歳 (%)	50～59歳 (%)	60～69歳 (%)	70～79歳 (%)	80歳～ (%)	総数 (人)
2015年 第6週		20.0	33.6	23.0	3.0	2.2	5.5	4.8	2.7	2.7	1.5	1.1	1807
第7週		21.5	33.7	20.6	3.3	3.2	5.2	4.2	3.2	2.4	1.6	1.1	1080
第8週		18.4	36.0	21.4	3.0	3.9	5.6	4.3	2.6	2.0	1.6	1.2	695
第9週		15.0	40.3	24.7	2.3	2.5	5.6	2.7	2.5	1.7	1.9	0.8	481
第10週		22.4	40.4	19.1	2.4	2.6	3.9	3.7	2.0	1.3	0.9	1.3	460

インフルエンザ定点

インフルエンザ定点とは、小児科定点と内科定点を合わせたもので、県全体で93定点(県:51、仙台市:42)となっています。

定点把握の対象となる5類感染症(全国 第8週)

(国立感染症研究所感染症疫学センターホームページより抜粋)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は第5週以降減少が続いている。都道府県別では福井県(19.69)、高知県(17.21)、沖縄県(14.53)が多い。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は399例と前週と比較して減少した。都道府県別では46都道府県から報告があり、年齢別では0歳(20例)、1～9歳(69例)、10代(8例)、20代(4例)、30代(14例)、40代(10例)、50代(13例)、60代(39例)、70代(65例)、80歳以上(157例)であった。**RSウイルス感染症**: 報告数は1,420例と第5週以降減少が続いている。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約73%を占めている。**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別では鳥取県(7.16)、山形県(6.34)、石川県(6.24)が多い。**感染性胃腸炎**: 定点当たり報告数は増加した。都道府県別では大分県(12.11)、宮城県(11.88)、福井県(11.64)である。**水痘**: 定点当たり報告数は増加した。都道府県別では沖縄県(1.44)、富山県(1.17)、宮城県(1.12)が多い。**伝染性紅斑**: 定点当たり報告数は第5週以降減少が続いている。都道府県別では石川県(0.97)、宮城県(0.81)、東京都(0.67)、神奈川県(0.67)が多い。**マイコプラズマ肺炎**: 定点当たり報告数は減少した。都道府県別では石川県(1.00)、香川県(0.80)、福島県(0.71)が多い。**感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)**: 定点当たり報告数は3週連続で増加した。3都道府県から147例報告があり、年齢別では10歳(21例)、1～4歳(103例)、5～9歳(15例)、10代(3例)、20代(2例)、40代(1例)、60代(1例)、70歳以上(1例)であった。

* 全国の指定された医療機関(小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)の集計結果です。()内数字: 定点当たり報告数

今週の全数報告疾病

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 結核
 - 塩釜管内 男性1名
 - 大崎管内 男性1名、女性1名
 - 石巻管内 男性1名
 - 仙台管内 男性2名、女性1名
- 3類感染症: 報告なし
- 4類感染症: 報告なし
- 5類感染症: 侵袭性肺炎球菌感染症
 - 仙南管内 男性2名
 - 大崎管内 男性1名
 - 石巻管内 男性1名、女性1名(第9週)

* 男児、女児は6歳未満

今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 3例

今週の感染症のコメント

ー 宮城県感染症対策委員会情報解析部会 ー

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】
石巻管内で警報継続中。

【病原体検出情報】

～宮城県保健環境センター～

感染性胃腸炎集団発生事例より
塩釜管内 第10週採取分 ノロウイルスG II 5件

インフルエンザ患者より
気仙沼管内 第8週採取分 インフルエンザウイルスA/H3 3件

～仙台医療センターウイルスセンター～

	第8週採取分 (2.16～2.22)	第9週採取分 (2.23～3.1)	第10週採取分 (3.2～3.8)
RSウイルス	1件	0件	0件
Aデングウイルス	1件	0件	0件

【インフルエンザ】

定点当たりの患者報告数が、全ての保健所管内で警報継続(注意報発令)基準値を下回ったことなどから、平成27年1月7日に発令したインフルエンザ警報を3月12日に解除しました。

【感染性胃腸炎】

県全体の患者報告数は横ばいですが、集団発生事例の報告もありますので、引き続き手洗いの徹底など予防対策に努めてください。

【HIV感染者、AIDS患者累積報告数】 平成26年12月28日現在

	HIV感染者	AIDS患者
宮城県	117(0)	80(1)
全国	16,858(265)	7,633(117)

()内は平成26年9月29日から平成26年12月28日までの報告数である。
API-Net(エイズ情報予防ネット)より